

目標1 多様な産業と住宅都市が共に発展するまち

取組1	内容	主な意見（概要）
<p>人・モノ・情報の循環が促進される仕組みづくり</p> <p>区内の魅力的な事業者や製品等を知り、区内で活用・消費することは、区内産業の活性化と発展につながります。さらに、区内産業の発展により、製品やサービスの質が向上し魅力が高まることで、消費者である区民のより良い生活につながることを期待できます。区内産業の魅力を発掘・発信し、質の高い製品等の販売・消費へとつなげていくことで、地域内で人・モノ・情報が循環する仕組みを整備していきます。</p>	<p>①（仮称）産業振興基本条例の制定 新規</p> <p>区の産業は、商業や工業のほかに農業や観光・アニメなど幅広い産業で構成されています。商店街や中小企業といった分類にとらわれずに、幅広い産業を念頭におき、産業振興の基本理念や、事業者、区民、区の責務などを定めた「（仮称）産業振興基本条例」を制定します。</p>	<p>区内産業の魅力発信について、区内事業者の良いところを表彰してあげるのが良いのではないかと思います。何か工夫するとおもしろいと思う。</p>
	<p>②産業振興センターにおける連携体制の構築 重点</p> <p>区と産業団体が同じ施設の中で業務を行う「杉並区産業振興センター」において、緊密に連携しながら区内産業の振興を促進していきます。また、日常的な意見交換や協働による事業実施に加え、産業振興センター関係機関連絡会の場を活用して恒常的に課題を共有し解決していきます。</p>	
	<p>③産業団体等と区の連携による区内産業の魅力発信 重点</p> <p>区内事業者による優れた技術や他にはない製品、特徴のある事業者を紹介するPR活動の充実や製品を手にする機会の創出など、区内産業の魅力を区内外に発信していきます。また、技術開発や経営基盤の強化などに優れた実績を上げ、地域産業の発展に貢献している区内事業者を表彰する制度の創設なども検討していきます。</p>	<p>すぎなみフェスタでの区内事業者との連携について、この取組は良いと思う。このような取組をやっていけば、区内事業者や区内産業の良さなど、そういうことがよく区民に周知されると思う。</p>
	<p>④産業団体等と区の連携による交流の場の拡大 重点</p> <p>業種の異なる様々な事業者が互いの経営資源を結びつけ、新たなビジネスチャンスにつなげることができるよう、異業種交流会を産業団体と区が連携して開催していきます。また、国や都、関連団体などが開催する交流会、展示会、ビジネスマッチングフェアなどに、より多くの区内事業者が参加・出展できるよう、産業団体と区が連携して支援していきます。</p>	
	<p>⑤（仮称）すぎなみまつりでの区内事業者との連携 新規</p> <p>人が集まることによって元気が生まれ、情報の発信にもつながります。区内には、他と比較して引けを取らない技術・商品を有している個性的な事業者が多く存在しています。これらを区内だけでなく、区外の事業者や住民に売り出すことができる場を提供し、区内産業の良さを多くの人に知ってもらい、ビジネスマッチングやジョブマッチングなどにつなげていくことが必要です。そのため、産業や交流などをコンセプトに、区内事業者等とともに、「（仮称）すぎなみまつり」に取り組んでいきます。</p> <p>*ビジネスマッチング：企業の事業展開を支援する等の目的で、事業パートナーとの出合いをサポートするサービスのこと</p> <p>*ジョブマッチング：仕事と人材、企業と個人をつなぐ橋渡しをすること</p>	

	<p>⑥「BUYすぎなみ」の推進</p> <p>区内での消費拡大による経済循環を進めるため、区内で生産された製品や農産物の購入、区内商店街の利用促進などを目指して「BUY すぎなみ」を産業団体との連携により推進していくとともに、区においては公共調達の一翼を担う区内事業者の活用促進に努めていきます。また、全国的に事業展開する区内企業等においては、国内外への発信力をさらに高めることで、「BUY すぎなみ」を広く推進していきます。</p>	<p>杉並区特有の商品、サービスがいっぱいあるので、それを広く公募したりして、審査基準を設けてブランドの賞の名前をつけて、杉並ブランドをもっと認知させるなど、ブランド面の強化・PRをしてはどうかと思う。</p>
		<p>農業も含めて、杉並ブランドを作るということは非常に重要なことだと思う。他区の取組でも、ブランドという言葉が入っているので、農業だけではなく、いろんな商品を含めて、杉並区でもぜひ推進していけたらいいのではないかと思う。</p>
		<p>目標3（食卓に彩りと心に潤いを与える産業で、やすらぎがあるまち）に関連する話になってしまうが、練馬の大根みたいに、何か杉並区もブランドがあればと思う。</p>

取組2	内容	主な意見（概要）
<p>創業・新たな事業展開への支援</p> <p>小さな事務所や自宅を仕事場とし、情報通信技術を活用する事業など住宅都市と調和した産業の起業・創業や新たな事業展開を進める事業者を支援していきます。</p>	<p>⑦創業支援 重点</p> <p>創業までの手続きや資金計画の立て方を学ぶ創業支援セミナー、起業・創業した人たちの経験から学ぶワークショップなど、創業後の順調な発展につながる支援を充実させていきます。</p>	<p>新宿区の「創業期から事業成熟期までの支援」について、杉並区には「成熟期まで」という文言が入っていないように思うため、今後入れていけたらと思っている。</p>
	<p>⑧創業支援施設の充実</p> <p>良好な執務環境の確保と地域経済の実状に詳しい支援者の配置などにより創業支援施設を充実させ、住宅都市と調和した都市型ビジネスの創業を支援していきます。</p>	<p>事業の立ち上げだけではなく、立ち上がった後、他区でも「5年以内であればまた融資をする」というような区もあったかと思う。創業後の面倒も見て、企業が安定的になるまでは多少面倒を見るというような施策を少し考えたほうが良いかと思う。</p>
	<p>⑨産業融資制度の充実</p> <p>事業の一層の活性化や厳しい経済情勢に対応する区内事業者のニーズを捉え、産業融資制度の充実・見直しを行っていきます。</p>	
	<p>⑩相談機能の充実 重点</p> <p>区内の経済事情に詳しい相談員によるきめ細かな相談や経営アドバイス、産業団体や都と連携した相談体制の拡充など、相談機能を充実していきます。また、図書館を活用した創業・経営相談を実施していきます。</p>	<p>新宿区の「創業期から事業成熟期までの支援」について、創業期の金融支援など、どこの区にもあると思うが、事業成熟期まで支援をしていただけると、創業後に経営の方向性がわからなくなったときに、取引先の金融機関あるいは関連した産業経済団体等に相談すればある程度のアドバイスをいただけると思うが、行政からも何らかのアドバイスをいただければ、安心感が大きくなると思うので、杉並区でも計画に盛り込めれば良いと思う。</p>

取組 3	内容	主な意見（概要）
<p>経営基盤の強化</p> <p>区内事業者の多くが直面する厳しい経営状況に対応するため、融資制度や相談機能の充実、次代を担う人材の育成や技術力の継承・向上の推進など、経営基盤の強化を支援していきます。</p>	<p>⑪区内産業の状況分析と活用</p> <p>区や民間事業者・団体等が実施する景況調査や実態調査などにより浮かび上がってくる区内産業の現状や課題を分析するとともに、それらを関係事業者と共有しながら産業支援策を進めていきます。</p>	<p>今、事業承継が話題になっており、例えば荒川区は融資を行っており、バトンタッチセミナーというものを開催している。事業承継を活発化させるようなセミナーとか、何か取組があってもいいのではないかと。</p>
	<p>⑫産業融資制度の充実【再掲】</p>	<p>平成27年度ぐらいに産業振興に関する計画を改定した区を見ていると事業承継という文言が余り出ていないが、平成30年度に改定している区は事業承継という文言が入っている。各区が事業承継を取り組むべき課題として認識しているのがうかがえる。具体的に区が突っ込んで何かをするというのは非常に難しいと思うが、計画改定で盛り込むべき課題だと思う。</p>
	<p>⑬相談機能の充実【再掲】 重点</p>	<p>事業承継については、東京商工会議所の強い要望で、国のほうで新しく法令もできたので、それをもっと皆さんに、事業承継をわかりやすく伝える機会を作ってもいいのではないかなと思う。</p>
	<p>⑭人材育成の充実</p> <p>区内事業者が実施する経営者・人事担当者セミナーや新規採用者の研修などの後継者育成事業を支援することで、区内産業が持続的に発展する基盤を整備していきます。</p>	<p>BCP（事業継続計画）について、資料3「他区の産業振興計画等の施策・取組について（目標1及び目標4と関連する施策・取組を抜粋）」について、2ページの新宿区産業振興プラン、5ページの世田谷区産業振興計画（素案）に、BCPについての施策・取組がある。災害や地震はいつ来るかわからないので、BCPについて考えている区もあるので、杉並区は対応できるかどうかかわからないが、検討の余地があるのではないかなと思う。</p>
	<p>⑮福利厚生事業（中小企業勤労者福祉事業）の運営</p> <p>中小企業勤労者福祉事業「ジョイフル杉並」が、区内企業等の労働環境の向上と雇用の確保につながるよう、勤労者一人ひとりの仕事と生活の状況に合う多様なサービスを提供していきます。また、今後の事業の運営状況を踏まえ、事業内容について必要な見直しを図っていきます。</p>	<p>「ジョイフル杉並」から「フレンドリーげんき」へ変わることで、サービスがより充実するので、その充実する部分を前面に打ち出して、より良くなることを計画に記載した方が良いと思う。</p>

取組 4	内容	主な意見（概要）
<p>交流促進の場の整備</p> <p>自治体や業種の枠を超えて活発に交流できる場を拡げていくことは、産業の活性化にもつながります。産業団体と区が手を取りあいながら、異業種交流会の共同開催や交流自治体との交流事業の実施などにより交流促進の場を整備していきます。</p>	<p>⑯交流自治体との産業交流の推進</p> <p>商店街での交流自治体の特産品販売の促進や様々なイベントを契機とした新たなビジネスマッチングの創出などにより、区と交流自治体の産業発展に対する相乗効果を生み出していきます。また、都市農業の担い手を育成するなど、交流自治体との連携による人的交流などを進めていきます。</p>	<p>特になし</p>
	<p>⑰産業団体等と区の連携による交流の場の拡大【再掲】 重点</p>	

その他	主な意見（概要）
消費者センターについて	先日、荻窪税務署跡地にできたウェルファームを見学したが、あそこに入る消費者センターの事業について、産業振興計画の中に組み入れてもいいのではないかと思います。
	<p>《事務局》</p> <p>消費者を守るという点を中心に据えれば、消費者センターとの連携は問題なく、横のつながりという視点として取り入れていくのは問題ないかと思います。</p>
	<p>消費者保護という観点でやるとすれば、生活者や消費者を守るための事業だと思う。こうやって産業振興なり地域の事業をより良いものにしていくという考えがあるので、消費者目線で消費者センターと連携することがあってもいいのではないかと思います。要は、杉並区内の消費を前向きに捉えるというか、良い商品、質の高い商品を杉並区は提案するという取組があってもいいのではないかと思います。</p>
	<p>例えば地域のブランドをつくるにしても、消費者に評価されないとブランドにならない。消費者トラブルなどがあって、それをフォローするための消費者センターというだけでなく、消費者センターがある商品やサービスを、推薦することはできないかもしれないが、安心して良質な製品・商品であることを、消費者センターと連携してPRできないかと考えており、もっと前向きに消費者センターの事業を活用したらいいと思う。せめて、産業振興センターと消費者センターの間で、情報共有や情報交換はあってもいいのかなと思う。</p>
	<p>今までの消費者センターは、苦情などの受付窓口みたいな役割を果たしていたが、消費者センターの今後の役割という部分について、将来に向けて考え方を考える必要も多少あるのではないかと。今すぐ具体的な取組を考えることは難しいですが、検討していくこともいいのではないかと思います。</p>
<p>《事務局》</p> <p>消費者センターの所管は区民生活部管理課になるので、消費者センターについてのご意見が出たことをふまえて、横の連携という視点で、産業振興計画の中にそういった視点を取り入れられるかということは、区民生活部内で相談したいと思う。</p>	

目標2 区民生活を豊かにする産業に支えられ、安全で住みやすいまち

取組1	内容	主な意見（概要）
<p>安全・安心な生活支援拠点としての商店街づくり</p> <p>商店街は、商品の販売やサービスの提供に加え、まちのにぎわいを創出し、人と人とがふれあう地域の貴重な財産です。区民それぞれのライフスタイルに応じて、多様な支援のメニューが用意され、生活にうるおいと豊かさを与え、安全・安心に利用できる生活支援拠点としての商店街づくりを推進していきます。</p>	<p>①商店街の防犯カメラ設置・装飾灯LED化等の促進 重点</p> <p>防犯カメラの設置や装飾灯LED化等の整備助成により、地域の防犯対策の向上、交通の安全及び生活環境の整備を図り、安全・安心で地球環境にやさしい商店街環境を整備していきます。</p>	<p>取組1としては、防犯カメラ設置と装飾灯LED化は、重点的になってくると思う。防犯カメラ設置や装飾灯LED化が促進され、年々、増えているが、早期に設置した商店街では設備の更新時期を迎えているところも出てきている。当然、これらが無い商店街に防犯カメラを設置したり、装飾灯をLED化したりすることも重要だが、既に対応済みの商店街についても、設置から7～8年経って、設備機器が老朽化したり、技術が進んで性能が古くなっているという課題もある。ただ、商店街に「新しく取り替えてください」と言ったところで、費用の面から厳しいだろうと思うので、そういう商店街に対して、区が何をできるのかということ、検討する時期に来たのかなと思う。</p> <p>《事務局》</p> <p>経年劣化については、今後どのような方法で対応できるか、今回の計画改定の中で考えなくてはいけないと考えている。</p> <p>杉並区は防犯カメラの設置率が高い区なので、今後も商店街の防犯カメラ設置を進めていくのはいいと思う。安心・安全のまちづくりのためには非常に有効であるというのはかなり証明されていると思う。長い目でずっと続けていく必要がある取組だと思う。</p>
	<p>②快適に買い物ができる商店街環境整備の推進</p> <p>駐輪場や休憩スペースの設置などの共同施設整備や街路の段差解消など、商店街の環境整備を一層進め、便利で快適な買物空間づくりを進めていきます。</p>	<p>駐輪場については、場所、地域によってはまだまだ足りないところがあるので、重要な取組だと思っている。阿佐谷の商店街なども、商店街の裏側には放置自転車がまだまだたくさんある状況なので、商店街を利用される方が使える駐輪場については、ぜひ整備を推進していただきたいと思う。</p> <p>《事務局》</p> <p>駐輪場については、以前から杉並区商店会連合会様からも要望をいただいております、課題として認識しているが、土地の利用といったことから難しい面もある。</p> <p>一方で、「新・元気を出せ商店街事業補助金」で駐輪場の整備については補助対象になるので、例えば商店街の中で適した土地が確保できたような際には、そういった補助金が見えることについてご案内していく。また、商業系の担当と商店街とのコミュニケーションを今後さらに密にしていき、商店街環境整備を推進していかなくてはならないと思う。</p>
	<p>③商店街「心のバリアフリー」の推進</p> <p>商店街の利用を通じて、人と人とのつながりを感じ、居心地の良い場所となるよう、きめ細かなサービスを提供する商店街づくりを進めていきます。また、高齢者や障害者など誰もが利用しやすく、状況に応じた適切な声かけや必要な手助けを行うなど、商店街のおもてなしの心が伝わる取組を推進していきます。</p>	<p>商店街は「地域の人とのコミュニケーションの場」になっていると思うので、その役割を推進していかないとはいけません。今、商店街の中にその役割を担うお店はあるのですが、地元に住んでいる事業主が少なくなって、地元以外のところから通っている事業主が増えている。杉並区内の商店街に出店する若い事業主の方に、商店街のそういった役割を認識してもらって取組が、これから必要かなと思う。</p> <p>《事務局》</p> <p>商業系の担当と商店街とのコミュニケーションを密にし、商店街の役割について理解を広げていく必要があると思う。</p>

取組 2	内容	主な意見（概要）
<p>まちづくりと連動した魅力ある商店街づくり</p> <p>これからのまちづくりには、地域の多様な特性を活かしながら、商業の活性化やにぎわいの創出、施設の整備などの取組が求められています。地域住民や商店街関係者等とこれからのまちの将来像を共有し、ハードの施策とソフトの施策との有機的な連携を図ることで、「良いまちをつくりたい」という住民の想いに応える魅力的なまちづくりを進めていきます。</p>	<p>④地域特性を踏まえた商店街支援の促進 重点</p> <p>商店街の立地環境やその地域が持つ歴史、自然環境、文化などの地域特性を活かし、将来のまちづくりにつながる商店街の取組を積極的に支援していきます。</p>	<p>高円寺は今、文化の特性を活かしたまちづくりということで、高円寺地域に根差した文化を活かして、春・夏・秋・冬と4大イベントをやっている。</p> <p>先月にやった演芸まつりについて、もともと高円寺に寄席があったわけではないが、商店街の中に個別にそういう寄席をやったり、芸人さんとの交流がある人が結構多かったので、そういうことをきっかけにやってみたら、演芸まつりに集まってくる人が増えて、もう8回目となるが、非常に盛り上がっている。</p> <p>そして、もう一つのきっかけとしては、劇場ができたことが大きい。座・高円寺ができて、そこと連携することによって、新たな地域の文化の醸成ができたと思う。その具体的な結果として、大道芸であり、演芸まつりや高円寺フェスがある。また、劇場の中に阿波おどりホールもあるので、阿波おどりの振興には非常にプラスになっている。</p>
		<p>地域ごとに特性を持っているので、まちにいる方たちがそういった地域の特性を活かして、行政と一緒に協力しながら、まちづくりをしていくことが重要だと思う。</p>
	<p>⑤文化・芸術を取り入れた商店街の魅力づくりの推進</p> <p>文化・芸術団体や様々な分野のアーティストが活動を行うことで、集客力や回遊性を高め、個性的で魅力のある商店街づくりを推進していきます。</p>	<p>高円寺が良い例だが、何か一つ主要なイベントがあったり、何か一つ特徴のあるものがあれば、それをきっかけにいろいろな地域の人が集まり、複数のイベントに発展して、さらに年々発展していくと思う。</p>
		<p>駅前の商店街はイベントを企画すれば人が集まるが、駅から離れている商店街は、駅前でやるイベントに対して、ちょっと疎外感があるというか、考え方の違いとかが商店街ごとにあると思う。</p> <p>しかし、高円寺はそういう現状を乗り越え、一つにするという発想でスタートした。駅の周りの商店街は、黙っていても人は来る。だけど、駅から離れていくと、集客力は小さくなる。それをどうしたらいいかということで、1つになってイベントを開催することによってお客さんを回遊してもらった。大道芸はまさにそういう発想である。中心にはもちろん人は集まるが、そこからお客さんが離れたところまで回遊してもらおうようなやり方が、もう根本の発想なんです。要するに、全体で一つになってやるということはそういう効果が出る。</p> <p>イベントを始めた当初は、いろんな考えの商店街があったが、この前の演芸まつりのように、今はそれが広がっている。地道だが、点がどんどん広がって、面として広がっている。やっぱりイベントの企画の仕方が重要である。阿佐谷でやっているジャズストリートもそうで、地域全体でやるような企画だと、駅から離れたところにも人が行くと思う。</p>
		<p>杉並区が今やっていることを振り返ると、地域に根差しているいろとやっていると思うし、それなりに評価できる取組を地域の皆さんがされていると思う。あんまり計画に新たなものを入れるのではなく、今やっていることを少しずつ肉づけしながら、例えば、阿佐谷の七夕まつりとか高円寺の阿波おどりみたいな事業になるよう、事業が育つ支援の仕方考えることが大事だと思う。</p>
	<p>⑥商店街からの提案事業への柔軟な支援 新規 重点</p> <p>まちづくりの視点を携えながらの地域ブランドづくりや商品開発など、地域経済の活性化や地域コミュニティの醸成等の相乗効果が期待できる、商店街が提案する様々な取組を柔軟に支援していきます。</p>	<p>イベントの実行委員会を含めて、事業に携わっている方々にも限りがある。商店の人は商売をしながら、夜に会議や作業をして、多忙になっているのが現状である。事業を増やすことによって、既存事業の運営自体が厳しくなるのではないかと思う。これから商店街の店主は高齢の方々が増えていくと思うし、そういった方々は体力的にもきつくなるので、既存事業に対する支援強化という方向で検討する方が良いと思う。</p>

取組 3	内容	主な意見（概要）
<p>商店街への経営支援</p> <p>区民に求められる商店街の役割を担えるよう、後継者不足による廃業や高齢化により活動力の低下している商店街への支援を強化し、活性化を図っていきます。また、これからの商店街を担う人材の育成を図るため、若手商業者による事業を一層支援していきます。</p>	<p>⑦外部人材を活用した商店街サポート事業の実施 新規 重点</p> <p>民間企業、NPO等の外部人材が積極的に商店街事業に関わり、意欲がありながらアイデアや実行力に不安がある商店街を強力にサポートすることにより、商店街の活性化を図っていきます。</p>	<p>大学との連携について、例えば、大学教授の方が、若い学生から新鮮なアイデアなどを提案してもらいやり方があると聞いたことがある。渋谷区なんかは、大学との連携などがよくあると聞いたことがあるが、外部人材について大学との連携という幅もあると、また新たなアイデアが出るのかなと思う。</p>
	<p>⑧専門家の派遣による商店街の経営力強化 重点</p> <p>商店街が抱える課題やニーズに対応できる幅広い分野の専門家を「商店街アドバイザー」として派遣し、組織活動の強化支援や経営改善などを図るためのアドバイスをを行い、商店街の経営力を強化していきます。</p>	
	<p>⑨若手商業者への支援</p> <p>若手商業者の団体が提案する意欲的で工夫とアイデアが盛り込まれた事業を支援し、これからの商店街を担う人材の育成を図りつつ、経営力の強化につなげていきます。</p>	

取組 4	内容	主な意見（概要）
<p>商店街の組織機能強化</p> <p>商店街と区が一体となって商店街への加入を促進するとともに、スケールメリットを活かす地域の商店街による連携事業、組織の再編などの取組を積極的に支援し、組織機能を強化していきます。</p>	<p>⑩商店街加入の促進による組織機能の強化 重点</p> <p>商店街加入店増加による商店街の経営力や活動力の向上は、まちのにぎわいや活力の創出などにつながります。商店街に加入する必要性や意義を明らかにすることで、商店街と区が一体となって加入促進に取り組んでいきます。また、商店街を構成する個店・チェーン店・大型店が協力し、同じ目標に向かって大きな力を発揮することができるよう、商店街の組織機能強化を図っていきます。</p>	<p>組織強化のために商店街の運営する拠点づくりについて、杉並区商店会連合会に加盟している商店街が 96 あるが、商店街事務所を持っている商店街は8つか9つぐらいである。事務所を持っているのは、ほとんど振興組合となっているところだが、大体の商店街は、会長さんのところが商店街事務所みたいに兼ねている。商店街の事業をやるときは、大体どこでもどこかのお店を借りて集まって会合したりするが、そういう活動がしやすくなる拠点を、地域に共同で使えるようなところがあると、地域全体の活性化につながるのではないかなと思う。</p> <p>商店街事務所に対する助成の要望を出してはいるが、簡単にいかないと思うが、共同で使えるような拠点づくり、そういう考え方もあっていいかなと思う。商店街を担う人も、自分のお店を提供してやっていくことが大変になっているのが現状である。</p>
	<p>⑪スケールメリットを活かす事業、組織化への支援</p> <p>地域の複数の商店街が共同でスケールメリットを活かす事業を行う場合や、その取組などを通じて、より組織機能の強化を図るための商店街組織の再編などが行われる場合にアドバイスなどの支援をしていきます。</p>	

個店への集客力を高める事業の先進的事例について		主な意見（概要）
100円商店街	2004年に山形県新庄市の新庄南本町商店街、新庄北本町商店街で始まった。平均の集客力は1万人、購入額は2千円という。現在では、各個店とも順調に新規顧客を確保しており、県内外からの視察団体も後を絶たない状況となっている。全国では、127箇所で開催されている。	「100円商店街」というのは、いわゆるお客さんと店主の接点をいかに事業を通じてつくるかがポイントだと思う。こういった事業を新たに検討される商店街に対して、多少、区としても支援はしますよとか、そういうぐらいのことでいいのかなと思う。 普通のイベントと違って、店の中に入ってくるイベントなので、非常に良いのではないかなと思う。ただ、どうやって区として支援していくかを検討する必要がある。
街バル	発祥は、2004年、函館市西部地区で、函館西部地区バル街実行委員会が開催。本州では伊丹市が2009年に函館市で開催されている事例を参考に初めて開催。伊丹市では、2009年以来「伊丹まちなかバル」を初夏と秋の2回開催。参加店54店舗からスタートしたバル事業であるが、近年では100店舗に迫り、参加者数は1万人にのぼる。 当イベントは、主に、地域および地域飲食店の活性化などの目的で、日本全国で開催されている。	「街バル」については、以前、同じような取組を中野でやっていた時に数回行ったことがあるのですが、お店によってはかなり割安にしているので、赤字の状況で実施しているお店もあったと聞いたことがある。お店に負担がかかるという課題にうまく対応できれば非常に効果的なイベントになると思う。こういったイベントを通して、今まで知らなかったお店や、入りづらかったお店にも入れるし、非常に良いと思う。 「街バル」に似たような感じで、阿佐谷で飲み屋さん祭りをやられている。阿佐谷の飲み屋さん祭りのおかげで、入りづらかったお店に入れて、そこからお店にとって良いお客さんになっていただいたという話も聞いたことがある。こういったイベントが継続的に、そして発展的に進めていくようになればいいと思う。だからと言って、区が全部応援する必要はなく、地域との関わり方を考えて、結果としてまちが活性化していけばいいと思う。

その他	主な意見（概要）
杉並区の産業振興に係る予算について	23区でも下の方であり、今までずっと、商店街だけでなく、産業振興に係る予算をもうちょっと増やさないと、個々の事業の成果が余り出てこないのではないかなと思っている。

目標4 安心して地元で元気に働き続けられるまち

取組1	内容	主な意見（概要）
<p>誰もが自分にあった働き方を選択できる仕組みづくり</p> <p>就労支援センターでは、区とハローワーク新宿が一体となって、若者等の就労を支援しています。就労意欲がありながらも雇用機会が得られない人や就労阻害要因を抱え支援が必要な人など、一人ひとりの状況にあった働き方ができるように支援していきます。</p>	<p>①相談者に寄り添った伴走型の支援 重点</p> <p>就労支援センターの「若者就労支援コーナー（愛称：すぎJOB）」では、就労について様々な不安や問題を抱えているなど、直ちに就職に結びつきにくい人に対し、相談者の状況に応じた支援プログラムを作成し、そのプログラムに基づいた就労支援準備相談、職業相談から就労後の定着支援まで、相談者に寄り添いながら伴走型の支援を行っていきます。</p>	<p>中・高齢者の雇用について、資料5「目標4（就労支援等）に関連する杉並区及び他自治体の事業について」に、中野区と株式会社セブンイレブン・ジャパンとの包括連携協定について記載がある。企業側も人手不足で、人材確保が非常に厳しいという背景があると思うので、企業側にもメリットのある取組だと思う。</p> <p>この包括連携事項の中に「中・高齢者の雇用に関すること」とあるが、実際に、高齢者を採用して経営しているコンビニが増えており、外国人の雇用も増えている。連携を通して、コンビニの仕事を知ってもらう機会を設けることにより、コンビニで働くイメージができなかった人に「やってみよう」という気になってもらう機会になるのではと思う。中野区にできたのだから、中野区からいろいろと情報を集めてみて、杉並区でもやる気になれば多分できると思う。</p> <p>少子高齢化ということで、若者・女性・シニアの雇用というところにフォーカスが当たる。これはこれで、杉並区もそういう考えだと思うので、その辺のところは他区に劣らないと思う。それと違った視点として、これからいろいろな産業を活性化するためには、スキルアップや人材育成の視点もあっていいと思う。</p> <p>80歳や90歳になっても元気な人もいるし、高齢者といっても何歳くらいまで働けるのか、その辺がわかりにくいと思う。杉並区にもシルバー人材センターがあって、多くの高齢者が働いており、それは本当に良いと思うが、何歳くらいまでの人を使ってくれるのかなと思っている。</p> <p>また、今は内職の仕事が少ない。高齢者ができるような内職の仕事があればいいのかなと思っている。</p> <p>高齢者については、やっぱり年齢が上がると、健康状態などに個人差が出てくるので、何歳くらいまで働けるかという線引きは難しいが、高齢者の雇用というものは考えていかなければいけない。</p> <p>《事務局》</p> <p>高齢者の雇用については、産業振興分野の事業なのか、福祉分野の事業なのかという線引きが難しい。</p> <p>ワークサポート杉並で障害者の雇用に関する取組をやっているが、就労支援センターにも障害者手帳をお持ちの方が就労支援を受けに来る。そういったところで、協力できるところは協力し、障害者の方も一般の方も一緒に職業訓練を受けることができるのではないかなど、課題として考えている。このたび、ウェルファーム杉並の中に、就労支援センターは入って、同じ建物の中に福祉事務所や、今後は特別養護老人ホームができる。</p> <p>高齢者あるいは自立支援について、産業振興施策と福祉施策との境目がかなり曖昧になっており、就労支援センターが福祉分野とこれまで以上に連携して支援するというような取組を進めていく。</p> <p>景気が悪かったときに、若者の就職先が確保できないという課題を区として認識し、その認識から始まった就労支援だが、景気が上向きになってきて、そういった課題は少し解決されている状況もうかがえるが、就労支援センターは全年齢を対象としてやっており、そういう状況をふまえて、充実させていく必要があると認識している。</p> <p>AI（人工知能）の活用に伴う産業構造や社会環境の大きな変化について、個人的には、AI（人工知能）の時代は間違いなく来ると思う。では実際に、就労支援、人材育成やマッチングにどう影響するかは、今の時点で方向性を出すのは少し難しいのではないかな。1年、2年、3年たって、平成34年度以降の計画を策定するときには、ある程度見えてきて方向性は出せると思う。</p>

		<p>就労支援全般について、就労支援というものは、どこの区を見ても、企業が人材を確保して、人材を育成して、就労者が働きやすい環境をつくることを支援する、一言で言えばこういうことだと思う。</p> <p>気になったのは、資料3「他区の産業振興計画等の施策・取組について（目標1及び目標4と関連する施策・取組を抜粋）」の3～4ページに台東区産業振興計画の記載があるが、「(5)若者・女性・高齢者など全ての人が活躍できる環境づくり」とある。杉並区産業振興計画を見ると、具体的に若者・女性・高齢者などの言葉が入っていない。少子高齢化をふまえて、高齢者の方を労働者として雇用するという視点を入れていかなきゃいけないと思うので、高齢者というところの部分、計画に盛り込んだ方がいいのかなと思う。</p> <p>台東区産業振興計画には、女性活躍推進プロジェクトや女性創業者ということもうたっているが、メンター交流会というのをされている。我々もそうですが、これまで事業をされてきた高齢者、いわゆる経営の先輩というのは、いろんな経験をして、いろんな意見を持って、アドバイスができる方だと思うので、若手の経営者や女性経営者が、そういう方の意見を聞ける場をつくってあげることによって、経営者を育てていくスタイルができるのかなと思う。</p>
	<p>②就労関係部署との連携による支援体制の強化 重点</p> <p>相談者の就労阻害要因の軽減を図るため、福祉等関連部署との連携・情報共有を密にして、効果的な就労支援を行っていきます。さらに、相談者の課題の早期把握にもつながるワンストップ型の生活相談窓口の設置とともに、ニートなどの潜在的な要支援者を就労支援センターの相談につなげるための取組について、若者の居場所づくりの観点も踏まえ検討していきます。</p>	<p>「若者の居場所づくりの観点も踏まえて検討していきます」とあるが、検討した結果どうなったのか。</p> <p>《事務局》</p> <p>ウェルファーム杉並に杉並区就労支援センターが移転したが、ワークルームというものを開設した。若者の居場所ということで、通勤・通所して仕事を体験する場所として新しく開設した。</p> <p>先ほどからウェルファーム杉並の話が出ているが、ウェルファーム杉並の役割が今後とても重要だと感じるので、ウェルファーム杉並について、具体的に計画に入れてもいいのではないかなと思う。ウェルファーム杉並にこういう機能ができたから、就労支援として、また新たに取組を推進していくなど、表現方法は事務局で考えてもらっていいと思う。</p> <p>高齢者や障害者に対する就労支援で、それが福祉事業なのか産業振興事業なのか棲み分けが難しいと思うが、これはやらないといけないと思う。垣根を超えて、産業振興施策と福祉施策に関わる大きな一つの取組として深掘りしていく必要はあると思う。</p> <p>例えば、AIの発展によって障害者が自宅でできる仕事生まれる可能性が出てきたりとか、高齢者でもAI等を活用できれば仕事ができたりとか、将来そうなると思う。今までは就労が困難だと思っていた人も、AIの発展によって就労の可能性が出てくると思う。具体的にどうしたらいいかわからないが、産業振興施策の中での就労や働き方という考え方と、高齢者や障害者などが働くということ、一緒に考えて深掘りしていったほうがいいと思う。</p> <p>障害者の方はそれぞれ障害の種類や程度が違うが、例えばAIを利用したロボットが、それぞれの障害の種類や程度を把握して、そのロボットが行う計算のもと、仕事を進めていくということも、先の話だろうけど、十分考えられる話だと思う。そういうことは当然、将来出てくると思うので、そういう視点は入れるということは、計画に盛り込んでもいいのかなと思う。</p>

取組 2	内容	主な意見（概要）
<p>意欲ある人材と区内企業を結びつける取組の推進</p> <p>地域経済を発展させ、地域貢献の担い手を確保するためには、地域への愛着を持った区内在住の優れた人材を区内企業に増やしていくことが必要です。区と区内企業のパートナー関係の構築による求人開拓や、区内学校との連携による就職活動の支援など、区内の人材と区内企業を結びつける取組を進めていきます。</p>	<p>③区内企業の魅力を伝えるPR活動 就労支援センターの企業PRコーナーの充実やホームページの活用、企業見学会の実施などにより、企業自身の特徴や魅力を求職者に提供していきます。</p> <p>④新たな人材の登用につながる求人開拓 関係機関と連携し、就職面接会の実施や就職活動に役立つ知識や技術を習得できる各種セミナー等を実施していきます。さらに、区内企業と連携した業種別の就職面接会の開催やトライアル雇用の実施などにより、企業が求める人材の登用につなげていきます。 *トライアル雇用：労働者を企業が短期間（原則として3か月間）試行的に雇用し、双方が適性や職場環境等について相互に確認した上で常用雇用に移行する制度</p> <p>⑤社会参加・中間的就労の場の確保 重点 様々な就労阻害要因を抱え、直ちに一般就労に結びつかない人に対し、一般就労につながるよう、NPO団体、福祉施設、企業と連携しながら、ボランティア活動などの社会参加の場や中間的就労の場を確保していきます。 *中間的就労：一般就労に直ちにつながりにくい人が、準備段階として日常生活での自立や社会参加のために働くことができる就労機会のこと</p> <p>⑥区内学校等との連携 区内の大学、専門学校、高校と連携して就職活動の現状把握に努め、就職先が決まっていない学生や中途退学者を就労支援センターの就労準備相談につながるよう取り組んでいきます。また、区内企業の求人開拓の取組として、区内企業でのインターンシップ制度を進めていきます。</p>	<p>中野区と株式会社セブン-イレブン・ジャパンとの包括連携について、目標4の取組2「意欲ある人材と区内企業を結びつける取組の推進」に「⑥区内学校等との連携」とあるので、区内学校等との連携だけでなく、企業連携というものを進めて、進展させていくのが一つだと思う。</p>

取組 3	内容	主な意見（概要）
<p>仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現に向けた労働環境の整備</p> <p>子育てや介護をしながらの就業など、生活を大事にしつつ多様な形で働くためには、企業や事業主の理解と協力が欠かせません。仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の理念を普及・啓発するとともに、勤労者の福利厚生事業を充実することなどにより、自分らしい生き方にあった労働環境の整備に向けた支援を行っていきます。</p>	<p>⑦仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の啓発促進 事業者や勤労者を対象とした各種セミナー・イベントなどの機会を活用し、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する学習機会や情報提供の充実を図っていきます。あわせて、区男女共同参画担当と連携した講演会等に取り組んでいきます。</p> <p>⑧勤労者の健康づくり支援 誰もが健康で働き続けられるよう、勤労者の心とからだの健康づくりを支援していきます。区の中小企業勤労者福祉事業「ジョイフル杉並」においても健康増進事業を重点的に実施し、近年の労働環境の中で大きな課題となっているメンタルヘルスに関する講演会や相談会などを開催していきます。</p> <p>⑨福利厚生事業(中小企業勤労者福祉事業)の運営【再掲】</p>	<p>資料5「目標4（就労支援等）に関連する杉並区及び他自治体の事業について」の3ページに、福岡県北九州市の取組が記載されているが、「キタキューかえる宣言」を企業・事業所などは「ワーク・ライフ・バランス推進アドバイザー（社会保険労務士）」の派遣を利用できる。やはり、ワーク・ライフ・バランスに取り組むのであれば、アドバイザー派遣みたいな取組を、具体的に計画に入れていくというような考え方もあるかなと思う。</p>

その他	主な意見（概要）
包括連携協定について	<p>中野区と株式会社セブン-イレブン・ジャパンとの包括連携協定、これは人材確保だけではなく、地域の活性化という面で進めていくことは本当に良いことだと思う。また、株式会社セブン-イレブン・ジャパンだけではなく、ほかの企業との包括連携協定も出てくるかもしれないので、こういう取組を探して、杉並区でもやっていけたらと思う。</p> <p>外国人の雇用について、雇用だけでなく、この包括連携協定を通して、いろんな形で外国人の方と関わる取組も出てくるかもしれないが、ぜひ進めてもらいたいと思う。</p>
これまでの取組について	<p>現計画に記載されているそれぞれの取組は、時間のかかることばかりですし、これからますます必要になる取組ばかりなので、継続した方が良くと思う。まだ結果も十分に出ていない部分もあると思う。</p> <p>現計画の取組について、3年後ぐらいに、これらが時代に合わないものになるかなと考えたときに、そうではなさそうに思う。表現を変えるかどうかは別として、取組の方向性というのはこれで良くて、計画改定検討部会で出た意見を加えて、改定に向けて検討を進めていただければなというふうに思う。</p>

目標5 魅力的でにぎわいがあり、また行ってみたいくなるまち

取組1	内容	主な意見（概要）
<p>杉並らしさを活かした集客事業の推進</p> <p>区内には、中央線沿線をはじめ各所に行事、芸能、食文化など、様々な分野のコンテンツが多数存在しています。このようなコンテンツを「杉並らしさ」という視点から集客資源として再構築することによって、区内はもとより、区外、都外、国外からの集客を実現し、「にぎわいと商機」の創出を図っていきます。</p>	<p>①杉並らしい集客コンテンツの集約 新規 重点</p> <p>「高円寺の古着」、「阿佐ヶ谷のジャズ」、「荻窪のラーメン」、「西荻窪の骨董」や、文学、演劇、ロック、クラシック、居酒屋、カフェ、雑貨など、多種多様なコンテンツを集約し、「様々な魅力が集まったエリア」として杉並が認識されるようにPRを図っていきます。</p>	<p>「高円寺の古着」については、以前は、高円寺のルック商店街に古着屋が集中していたが、現在は高円寺エリア全体、特に南側に古着屋が広がった。</p>
	<p>②多様なメディアを活用した効果的な発信 新規 重点</p> <p>区広報・ホームページにとどまらず、ガイドブックの配布、新聞社とのタイアップイベントの実施、即時かつ広範囲に情報伝達が期待できるSNSの導入、娯楽性が高く誘引力の大きいARの活用など、内容や用途に応じた効果的な発信を行っていきます。</p> <p>*SNS (social networking service)：社会的なつながりの場をインターネット上で提供するサービス。代表的なものにFacebookやmixi、Twitterなどが挙げられる</p> <p>*AR (Augmented Reality)：拡張現実。知覚する現実をコンピュータにより拡張する技術。例えば、特定の写真や絵にスマートフォンをかざすと画面上で動画が起動するような仕組み</p>	<p>ホームページ、SNS、その他のメディアなど、昨今は情報発信のツールが多様化しているため、幅広くあるサイト運営を統括する、総合ポータルサイトが必要だと感じている。区の主導が難しければ、どこかの団体などに統合的な視点で検討させて、杉並をPRする仕組みを作りあげる方法もあるのではと思う。工夫すれば大きな予算にはならないと思う。以前、杉並区も検討されたことがあるかもしれないが、民間と上手くコラボしたり、新たな発想で取り組み、良い展開が望めるのではないかと思う。</p>
	<p>③多言語化への取組支援</p> <p>国外からの集客を視野に入れて、ガイドブックや飲食店のメニュー、簡易な接客問答等の多言語化への取組を支援し、来訪時の心のこもった手厚いおもてなしの充実を図っていきます。</p>	
	<p>④杉並のシンボルとなるイベントの開催支援</p> <p>高円寺阿波おどりや阿佐谷七夕まつりのような大規模なイベントは、開催される地域にとどまらず、杉並のブランドイメージを向上させ、内外に対する大きなPR資源となっています。今後さらに杉並のイメージアップにもつながる大規模なイベントの開催を支援し、集客事業の起爆剤として効果的に活用していきます。</p>	
	<p>⑤集客事業を担う人材・組織の育成</p> <p>地域イベントを企画・運営している人材や杉並の魅力を発信している「すぎなみ学倶楽部」に携わる区民ライターなど、区内には集客事業を担うことができる人材は豊富に存在しています。これらの人材をはじめ、意欲のある団体・民間事業者・個人を育成し、将来的には民間主導による自立性の高い集客事業の組織設立を促していきます。</p>	

取組 2	内容	主な意見（概要）
<p>アニメを活用した事業の推進とアニメ産業の支援</p> <p>国内屈指のアニメ制作会社が多数本社を構えるなど、区は日本アニメ産業の中心地となっています。こうした特徴を活かし、区内制作会社の協力を得ながら、アニメコンテンツを活用した商店街の活性化やまちのにぎわいの創出を図っていきます。また、制作者等の人材育成や、普及活動等により、区内アニメ産業の支援を行っていきます。</p>	<p>⑥アニメコンテンツを活用した事業の支援 重点</p> <p>アニメイベントの開催やキャラクターグッズの開発等、アニメコンテンツを活用した事業を支援することで、商店街の活性化やまちのにぎわいの創出を図っていきます。また、区公式アニメキャラクター「なみすけ」のさらなる知名度の向上を図り、民間事業者による「なみすけ」の商用利用を促進していきます。</p>	<p>事務局が作成した資料6「計画改定にあたってのアニメ関連事業に関する考え方（案）について」に沿って、一度、方向性や全体像を考えるべきだと思う。</p> <p>先日の産業振興審議会で様々な意見が出て思ったのですが、どのようにしてアニメに関する取組にお金を出すというよりも、どういうふうに区が取り組んでいくかについて、もう一度、その方向性を見直したほうが良いと思う。</p> <p>資料6「計画改定にあたってのアニメ関連事業に関する考え方（案）について」のような資料を一度、産業振興審議会に出して、区はこういうふうに考えていくんだということについて、審議会で意見をもらった上で、その意見を資料6に落とし込んだほうが良いと思う。まず、基本的な考え方を整理した上で、具体的な取組について検討した方が良いと思う。</p> <p>中野区と連携して、より広域的に取り組むんだということ、資料6に盛り込んだほうが良いと思う。</p> <p>《事務局》</p> <p>他区との連携については、中野区だけでなく、今後、練馬区や豊島区などの近隣区との可能性を探っていきたくと考えている。</p>
	<p>⑦アニメ制作者の人材育成支援 重点</p> <p>区内アニメ制作会社と連携しながら、海外進出や高品質化など新たな課題に挑戦する次世代のアニメーターの育成・支援を図っていきます。</p>	<p>先日の産業振興審議会では、人材育成に関して、区はちょっと引いているというような意見があった。でも、資料6「計画改定にあたってのアニメ関連事業に関する考え方（案）について」の「3 人材育成事業について（1）杉並アニメ匠塾の廃止」に記載されているように、「杉並アニメ匠塾」を作って人材育成するようになり、実際にどういう実績があったか、どこまで目標を達成できたかということをもふまえた上で、今後それができるかできないか、取組の結果として実績がどうついてくるかを考える必要がある。</p> <p>資料6の「3 人材育成事業について（2）今後の人材育成に関する考え方（案）」に記載されているように、「人材育成」ではなく、「キャリア教育的な視点から、小学校の「総合的な学習の時間」や各地域のイベントなどにおいて、出張によるワークショップ（簡易的なアニメ制作体験）を用いて、アニメの普及啓発事業の一環として、人材育成的な要素を盛り込み」というのはすごく良いと思う。</p> <p>《事務局》</p> <p>人材育成をした結果、杉並区のアニメ制作会社に就職していただける保証は無く、不確定である。そういったこともあって、以前のような直接的な人材育成というものを廃止している。考え方としては、資料6の「3 人材育成事業について（2）今後の人材育成に関する考え方（案）」に記載したように、こういった考え方で裾野を広げていく、あるいはアニメというものを一つの職業として、子供たちの理解を広げていく、地域にも広げていく、こういった取組が人材育成ということになってくると考えている。</p> <p>資料6をベースにして、計画改定にあたってのアニメ関連事業に関する考え方（案）について、5月の審議会で委員の皆さんから意見をもらいたいと思う。</p>
	<p>⑧アニメーションミュージアムの活用方策の検討</p> <p>アニメーションミュージアムが区のアニメ振興のシンボルとして広く認知され、まちのにぎわいを創出し、より一層集客力のある施設となるために事業の充実と魅力を発信するとともに、アニメコンテンツの活用などにおいても中心的な役割を担えるよう検討を行っていきます。</p> <p>今後策定する「(仮称)施設再編整備計画」の方針を踏まえた活用方策についても検討していきます。</p>	<p>所沢にアニメに関する施設ができれば、当然、所沢市も力を入れてくると思う。ネットさえ繋がれば、アニメ制作会社はどこに事業所があってもいいわけで、そういった拠点ができることによって、杉並区内のアニメ制作会社がそちらへ流出していくかもしれないと危惧した。その辺のことを、区の将来像を考えるとときに多少考えておかないといけないと思うし、資料6に盛り込んだほうが良いと思う。</p>

取組 3	内容
まちづくりと連動した魅力ある商店街づくり【再掲】	⑨地域特性を踏まえた商店街支援の促進【再掲】 重点
	⑩文化・芸術を取り入れた商店街の魅力づくりの推進【再掲】
	⑪商店街からの提案事業への柔軟な支援【再掲】 新規 重点

「平成29年度第3回産業振興審議会での意見」に対する主な意見（概要）	
<p>現在の杉並区内のアニメ産業に関する実態が、把握できていなかったのではないかなと思う。アニメ制作会社等は、商店街の中に店舗があるわけじゃないので、事務所や制作会社がそんなに多く区内にあることを、我々は全然認識していなかった。区では、その辺の実態をどの程度把握されているのかなと思った。だから、もうちょっと実態を深掘りしたほうがいいのではないかなと思う。</p>	
<p>《事務局》</p> <p>区内のアニメ制作会社の数は把握しているが、個々の会社と、例えば産業振興センターと商店街の関係のようなコミュニケーションは取れていない。また、アニメ制作会社が区からの支援を特段望んでいないと考えている。アニメ制作会社にとっては区の支援より、スポンサーからの桁の違う支援が必要であり、そのため区に対するアプローチは少ないと思う。また、アニメ制作会社が所有する権利については、そこから生まれる利益が莫大なものであるため、区との連携の中で使わせていただくことは難しい。</p>	
<p>阿佐ヶ谷のアニメストリートが華々しく始まった時、町会関係者や商店街関係者も呼ばれて行ったのだが、その時には、アニメの好きな人が全国からたくさん集まり、1日2,000人、3,000人集まるというような内容の話聞いた。最初の頃はいっぱい人が並んでいたが、今は行列も無くなった。</p> <p>JRの事業として誘致したと思うが、地元の商店街との連携もなく、杉並区のアニメ関連事業との連携も無く、あそこだけでやっているから、最初の華々しさが無くなったと思う。</p>	

その他	主な意見（概要）
民泊について	<p>観光という視点で、民泊について何らかの形で産業振興計画に盛り込む必要があるのではないかなと思う。杉並区の民泊というのは、どういう方向で行ったほうがいいかということについて、計画の中に項目としてはあってもいいのではないかなと思う。</p>
	<p>観光として、まちのにぎわいが増えて、観光客が区内に来て、区内で観光客を泊めるにはどうするのか。やっぱり宿泊施設をどう作っていくか考える必要がある。観光を考えると、人に来てもらいたいと言うだけでなく、宿泊もセットでないといけない。杉並じゃなくて、他区に泊まってもらうという考えなら、それはそれでいいのだが、そのところをはっきりしたほうがいい。</p>
	<p>《事務局》</p> <p>民泊に関する法律の制定趣旨として、観光目的にも役立てるといことが大きな柱にはなっているが、この間、杉並区で検討してきた中では、可能性としての話ではあるが、商店街の皆さまと連携したりすることは容易には考えつく話ではある。ただし、地域の皆さまのお話をふまえると、地域の住環境の保持がとにかく第一だと考えている。</p> <p>法律であるため否応なしに施行されるが、杉並区で行われる民泊事業者が、どのように住環境の保持に配慮して、地域の皆さまの理解を得られる事業展開を行えるかどうか、それが試されると思う。</p> <p>宿泊施設は「にぎわいの創出」に欠かせない部分ではあるが、民泊のことを産業振興計画に盛り込むかどうかについては、あらためて考える必要があると思っている。</p>